

ハンターランク認定マニュアル

ハンターランクは、一般社団法人神奈川狩猟協会(KANAGAWA HUNTING ASSOCIATION)が認定し、ハンター技術の習熟度を認定レベルで対外的に示すことができることを目的とします。

1. ランクは、初心者から中級者・上級者までをランク付けします。
2. 基本は、「習うより、慣れろ」。

初心者ランク

○ベーシックハンター(BASIC HUNTER)

出猟9回までを初心者導入ランクとします。

罾は5頭捕獲まで

○オープンハンター(OPEN HUNTER)

出猟30回までを初心者ランクとします。

罾は10頭捕獲まで

中級者ランク

○アドバンスハンター(ADVANCED HUNTER)

出猟120回までを中級者ランクとします。

罾は30頭捕獲まで

上級者ランク(レギュラーランク)

○マスターハンター(MASTER HUNTER)

出猟121回以上を上級者ランクとします。

罾は31頭捕獲以上

2. 認定基準及び認定

ランク認定はハンターログブックにより認定する。

(1)ハンターログブックには、出猟回数(NO. 1～)・出猟目的(鳥獣類・銃器か罾か)出猟日時・出猟場所(ロケーション)・出猟者人数(実名)・捕獲鳥獣(捕獲数・性別・捕獲数・重量・自身捕獲か否か)・出猟者サイン

(2)ハンターログブックは、特に様式指定はありませんが協会推奨ログブックにより、協会認定印を発行します。

3. 認定対象

ハンターログブック所持者を対象とします。

平成28年1月9日制定

著作物につき、類似模写複製・複写には許諾が必要です。一般社団法人神奈川狩猟協会

ベーシックハンターマニュアル

1. ベーシックハンター

ベーシックハンターは、狩猟免許取得後、狩猟登録しフィールドで初めて狩猟をするハンターが対象で、9回の出猟までのハンターです。

罾では、5頭捕獲まで

(1) 実猟までの準備

銃猟では、銃所持許可証・狩猟登録証・銃・弾・解体ナイフ・ロープ(猟犬捕縛、獣類運搬)・ノコギリ・飲食物(飲物、食べ物、飴・チョコなど)・無線機・電池・電池式照明具・タオル・ティッシュペーパー・バンドエイド・簡易イス・バックパック

罾では、止め刺し用具など

(2) 出猟時服装

□銃猟

長袖シャツ・長ズボン・手袋・ハンターブーツ(長靴、安全靴などで靴底に鉄類底敷きがあるものまたは底敷きを入れたもの)・オレンジ帽子・オレンジチョッキ

□罾猟

長袖シャツ・長ズボン・手袋・ハンターブーツ(長靴、安全靴などで靴底に鉄類底敷きがあるものまたは底敷きを入れたもの)・オレンジ帽子・オレンジチョッキ

(3) 出発から集合場所到着まで

出発は余裕を持って忘れ物チェック、車両移動であれば乗車時から無線はON途中トイレも済ませましょう。

集合場所が林道を通行する場合は、林道の走行は鳥獣を驚かせないように、また路上の落ち葉堆積などタイヤが滑ったり、底を擦ったりしないよう徐行運転励行。運がよければ獣類とも遭遇できます。

集合場所到着は、集合時間前30分以上前までに。

(4) 集合場所では

リーダーの指示に従い行動をします。

□KY実施

リーダー及び勢子により、点呼・体調確認・当日の狩猟場所など説明。

それぞれの役割、連絡法、集合場所、誰と行動をするかなど説明。

ポイント:移動時や配置ポジションではバディシステムをとる。

バディシステムとは、2人一組での行動を基本としますが、配置ポジションでは両隣を言います。

□ポジションへ移動

先ず銃の脱砲確認、銃身カバー取り付け。移動時はバディシステムをとり、無駄口をつつしみ道路周辺及び道路上を目視確認し位置状況、通路確認(特に道路でない場合は十分足元を確認し、迷わないよう付近ポイント(大木・岩・石など)を確認。

(5) 狩猟ポジションでは

銃を振れる環境がある場所選定、もし難しい場合は枝を切る・足場をならすなど周囲環境を整備。両隣の位置を再確認する。

猟著作物につき、類似模写複製・複写には許諾が必要です。一般社団法人神奈川狩協会

ポイント:銃を撃つには安土がある場所、撃った弾が兆弾しない、着弾地がしっかりしている範囲を、銃を実際に構えて確認する。狩猟が始まるまで何度も銃を構えて撃てる範囲を確認する。

- ・獣類は耳がよいので気配を悟られないよう、静粛に行動する。
- ・イスなど座っても良い。

罾猟では

出猟から罾設置まで

出発時

狩猟マップ(鳥獣保護区等位置図以下狩猟マップと記す)の確認を行なう。

保護区など、罾猟禁止区域を必ず確認。

- 移動中保護区など標識を確認しながら現地へ移動。
- 現地到着後再度狩猟マップの確認。
- 道路を歩きオツを確認しながら、獣の足跡の新旧を確認。
- 道路とオツ位置との距離を確認。
- 周囲環境を確認。
- 罾設置箇所を特定する。

地権者が判明している場合は必ず設置の承諾を得る。

付近に住宅などある場合は、設置を知らせる案内を標示する。

- 罾設置。
- 罾に標識を取り付け。

罾に獣が掛かった時

□罾確認は掛かった獣に気配を取られぬよう、静かに罾に近づく。

□罾ワイヤーの状況、掛かった獣の足の位置(前足か後ろ足か)係り具合を確認する。

□とめ刺し用具の選定。前足に掛かった場合は、ナイフ・ヤリなど刺し止め用具を使用。イノシシは後ろ足にロープやワイヤーで更にくくり、立ち木に固定し獣の動きを止めることにより安全に差し止めが出来る。

後ろ足に掛かった場合は、前足又は首などにロープやワイヤーでくくり、前方の立ち木などにロープなどを固定し獣の動きを止めることにより刺し止めが出来る。

銃猟禁止区域以外では、銃の刺し止めが安全である場合が多い。

注意として、箱罾については銃による刺し止めは出来る限り避ける。兆弾の可能性が高い。

□罾改修時は、付近を均し掘られた穴は必ず埋める。

ポイント:罾猟では、毎日の罾の確認を二人以上で行なう。狩猟期間中は、グループ猟の猟犬が誤って罾に掛かる事例が多く発生します。

罾の点検や掛かった獣が人間に危害を及ぼさないよう、掛かった獣は早く止め刺しを行なう。

箱罾に子供が入らないよう、危険標識の取り付けも行ないましょう。

著作物につき、類似模写複製・複写には許諾が必要です。一般社団法人神奈川狩猟協会

(6) 銃猟の狩猟が始まったら

□リーダー、勢子から合図がありスタートします。

- ・連絡は、狩猟中はリーダー及び勢子から全て指示が出ます。指示に従うこと。
- ・猟犬が来た場合は、どちらからどちらへ行ったか連絡をします。
- ・猟犬が鳴き始めたら、銃に弾を装填します。それまで弾は手に持つなり装填が直ぐできる体勢を維持します。
- ・獣類が犬に追われている時、自身に向かっているか否かは、犬の鳴き声が地被っている場合、はっきりした犬の鳴き声が聞こえます。ここで銃を構えて安全を外し待ちます。
- ・獣が見えた場合は、射程・安土など安全に打てる場所にある場合は弾を発射。
- ・仕留めた場合は、安全を掛けて弾を装填したまま、獣へ近づき生死確認し、生きていようであれば、止め矢を撃ちます。
- ・獣が走り去った場合は、無線で名前と撃ったのは自分である、獣はどちらへ移動しているかを仲間に知らせます。
- ・その後獣を撃った場所へ移動し、半矢か否かを出血があるか否かで判断し追加連絡します。
- ・半矢でない場合は、速やかに基位置ポジションに戻り、脱砲し待ちます。
- ・仕留めた場合の指示、終了した後の指示が出るまで自身のポジションは移動禁止です。

ポイント：自身の撃った弾の責任は、全て自身であることを常に頭に置き、無理な発砲は絶対行わない。勢子は常に撃つ付近にいるので、発砲先の獣の確認を行ってから発砲する。決して「木が揺れたから・音がしたから」では撃たない。

(7) 狩猟終了

- 集合場所に移動する際、忘れ物が無い様、身の回りの確認。付近の状況を確認(打った場所、獣の通った場所など)します。
- 捕獲獣があった場合は、搬出・運搬の指示に従う。
- 終了ミーティング

リーダー及び勢子から状況説明があり、反省点など次の猟に向けてのコミュニケーションがある。

(8) 捕獲獣類解体

仕留めた獣類は、解体場所で指示により解体を行います。残渣は埋める場合、土砂を残渣物から地表まで概ね50cm被るくらい深く掘ります。

(8) 解散

ハンターログブックに出猟者サインを忘れずに、書き漏らしの無い様情報はしっかり確認ください。

ベーシックハンターでの知識

1. ハンター用語

タツマ:狩猟者の狩猟時のポジション

オツ : 獣道 地域的に呼称は違います。ウヅは神奈川県西部での呼称

ネカ : 獣類の寝家・寝床。ネヤとも呼称する。

クロッキ:落葉樹でない針葉樹。

アカド : 赤土。

スズ:丹沢地方ではスズ竹と言う熊笹の背丈が高い竹類。

崩壊 : 崩れ場所。

タルッコ:穏やかにたるんで(お碗内側形状)見える。

オデッコ:額のおでこ上に上から下ると急に傾斜がめり込んだ状況。オーバーハン
グ状態。

エムケー:向い側。

馬の背:水平な尾根

一般的に狩猟グループにより、タツマなどは隠語を使用するが多い。例えば落ちていた物、昔あったもの、置かれているものなど。地域的要因やグループによっても呼称は一致しないことが多い。

鳥獣類の解体方法も地域的要因やグループによっても相違する。

ベーシックハンターでの認定基準付記

獣の足跡判定:獣の判別が出来る。

鳥類の判定:飛んでいる鳥の判定が出来る。

解体作業:鳥獣の皮むきが出来る。

オープンハンターマニュアル

1. ベーシックハンターで習得したマニュアル以降について記載する。
オープンハンターでは、より安全に技術習得を重ねることを目的とします。

(1) 集合場所では

□今までの自身の反省点・疑問点など仲間やリーダー・勢子に聞き、出来るだけ不安解消に努めてください。知ったかぶりは禁物です。

□グループ猟では、仲間とのコミュニケーションが安全確保の基本です。苦手な仲間を作らないよう、積極的に参加する。

(2) タツマ移動

・安全とオツの確認を仲間と確認し移動する。また仲間のタツマ位置情報も確認する。

(3) タツマでは

・自身の射程に併せた場所を、タツマ位置として確保できる探索をする。

・音を出さない環境を作る。落ち葉をどける。落ち枝をどける。

・タツマ到着をリーダー・勢子に連絡する。

・銃身カバー取り外しや弾の装填時期のチェックを自身で行う。

・頬付け練習を丹念に行う。

(4) 狩猟が始まったら

・猟犬が鳴かない場合でも、獣は動き始めるため気配を感知する努力を行う。特に背面気配の感知努力を行う。

(5) 狩猟の変動があったら

猟犬が来たり、獣が来たり、銃を発砲した場合など。リーダー・勢子・仲間は何を知りたいかを察知し、情報を発信する。

・情報発信は自身の名前、何がどうして・どうなったか。例えば撃った獣がどちらからどちらへ行ったかは狩猟で一番必要な情報です。

(6) 狩猟終了

□集合場所移動時はオツの状況の往復での違いを確認する。

□周囲状況をしっかり把握する。

□終了ミーティングでは、さまざまな情報を聞きます。

(7) 解体作業

積極的に参加し、刃物の使い方を習得します。

(8) 解散

ハンターログブックにサインをもらいます。記載事項の情報をしっかり記載します。

畏猟では

・捕獲する目的獣を対象に、捕獲できる技術を習得する。

オープンハンター認定基準付記

獣の足跡判定: 足跡の新旧判断が出来る。足跡の方向が判断できる。

解体作業: 内臓を一連で引き出せる。

アドバンスハンター

1. オープンハンターで習得した以降について記載します。

アドバンスハンターでは、狩猟の中心的技術者として活動することを目的とします。

(1) 集合場所では

□ タツマ位置情報を仲間に教え、過去の状況を情報として公開します。

□ コミュニケーションに積極的に参加します。

(2) タツマ移動

□ 移動時オツの状況をしっかり把握し、タツマに着いたらリーダー・勢子に報告します。獣の出入り、新しいか古いかはかなり重要です。

(3) タツマでは

安全確保を更に重点におきます。慣れによる事故はヒューマンエラーの特徴です。狩猟は安全が担保されて、初めて出来るものです。

(4) 狩猟が始まったら

体を動かさず目で追う癖をつけます。獣類は耳が良く動作による気配を強く感じ取ります。出来るだけ発砲のチャンスを掴みましょう。

(5) 狩猟の変動があったら

基本は犬の動きを察知し、常に獣が移動し射程に入る可能性を頭に行動します。連絡は、最低必要条件に留めます。

(6) 狩猟終了

ハンターログブックに出猟者サインをもらいます。記載事項に情報を記録します。

罾猟では

- ・罾を自分で補修、作成する技能を修得する。
- ・獣の解体が一人で出来る技能を修得する。

アドバンスハンター認定基準付記

獣の足跡判別: 足跡を50m以上追尾出来る。

解体作業: 一人で解体作業が出来る。

マスターハンター

1. アドバンスハンターで習得した以降について記載します。

マスターハンターでは、全てのタツマ情報を把握し、初心者に情報を与える能力を持つレベルです。

常に新しい情報を得る努力と、自身の足でタツマ情報を確認する努力をもちます。

著作物につき、類似模写複製・複写には許諾が必要です。一般社団法人神奈川狩猟協会